

困難を切り抜けられる児童の育成

—対処・資源の2方向から見た切り抜けマップ作成を通して—

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 生徒指導・教育相談系

氏名 大橋 史人

本研究の目的は、小学生を対象として、困難な状況にさらされてもよく適応するための対処法を、「個人内資源」「環境資源」という資源の側面と「問題解決」「情動焦点」という対処の側面からなる4側面に分けて考えて実行することと児童のストレスの量や対処法の増減との関係性を明らかにすることにあつた。また、マインドフルネス瞑想を用いることで児童の認知の誤りが是正されることで困難自体の減少との関係も明らかにすることにあつた。検証は小学生用ストレス反応尺度、小学生用ストレスコーピング尺度、援助要請スタイル尺度、児童用認知の誤り尺度を用いた。その結果、学級全体でのストレス量は減少し、対処法の増加が見られた。また、これまでの援助要請スタイル尺度を用いると、援助要請過剰型・援助要請回避型が減少し、援助要請自立型が増加した。また、認知の誤りについても学級全体で減少する結果が得られた。